

## 第2回町田市子どもの居場所づくり懇談会議事録（要旨）

日時	2008年9月19日 10:00～12:00
場所	町田市役所森野分庁舎2階第三会議室
出席者	長野座長、脇副座長、藺田委員、宮島委員、近藤委員、盛永委員、舟山委員、上田委員、福田委員、萩原委員、岩崎委員、安食委員、奥委員、浅野子ども生活部長
傍聴者	2名

### 議題1 市内の子どもの居場所の状況について

座長： 前回の意見を深めていくにあたって、現在の町田市における子どもの居場所の具体的な事例を知っておきたい。部分的ではあるが、映像資料で典型的な居場所像を確認、参考にしていく。

事務局より、市内の子どもの居場所の状況について、写真（スライド）発表を行う。

### 議題2 協議

座長： 先日、親しみのある公園でさえ児童殺害事件があった。他人事とは思えない。

前回フリートークで出た意見について、副座長が要点を絞りレジюме作成したので、これを元に意見交換したい。

副座長： 今回の会議を進めるのに、前回出た意見を項目立て、整理した。大きく分けて5項目。6番目は全体を通して印象に残った言葉をまとめたものである。

（資料に沿って、各項目の説明）

今回は各々の意見発表だったので、共通点をまとめた。今後はこれを発展させて、共通理解を持っていきたい。

座長： 今後の話し合いは、この6項目のいずれかに相当して進んでいくであろう。大きな結論としては、レジюмеの1「子どもの居場所の必要性」についてである。今後のあり方を、会の総意としてどのように提言ができるか。私たちの話し合いと10月からの地域会議をもって、

作り上げていく。

この後の協議では、委員そのものの意見交換ができたらと思う。まずは2名の委員から提言が出ているので、話題提供として説明をしていただきたい。

委員： 地区委員の中で、PTAの方々から出た意見の要点をまとめた。《資料 子どもの居場所作り懇談会への提言》

校庭開放は毎日行いたい、人材をそろえるのが難しい。PTAの中でも議論が進まない。有志がシフトを組んでいる状態だが、それでも週1～2回が限界である。子どもたちは放っておいても毎日来ているので、安全を考えると毎日誰かの目があるとよい。一昨年は子ども教室で実施したが続かなかった。今年度は行っていないが、できれば地域子ども教室の中でもう一度シフトが組めないかという意見がある。金銭的な裏打ちと人材をそろえることもそうだが、人材の養成をし、質を高めることも必要である。自分が子どものころは、学校には小遣いさんや用務の職員がいて、1日中子どもに接してくれていた。また宿直の教員が、夜でも子どもの相手をしてくれていた。公的な面での取り組みも考え直してほしい。

冒険遊び場では、シフト制で毎回2～3人の指導員・プレイリーダーがいなければ、子どもたちの自由な遊びと安全を保障できない。土地は地主さんの好意により無償で貸してもらっているが、指導員・プレイリーダーを配置するには週1～2回実施でも費用がかかる。市からも補助はあるが十分ではないので、バックアップしてほしい。金銭面だけでなく、リーダーの養成にも公的な立場で援助してほしい。

市の地域子ども教室の援助は、単年度決定なので不確定。市の方針を一本通して、せめて10年規模での検討をしてほしい。そして今は開催地域が少ないので、拡大していけるとよい

成瀬台の地域子ども教室では、地域の要望を受けて先日も茶道教室を行った。地域子ども教室によって子どもたちの興味、生活の幅が広がり豊かになっている。今後もその地域独自の自主的な活動として進めていきたい。

どんな形で実施するにしても、子どもに対して大人が強制すると長続きしない傾向がある。たぬき山のように、大人は簡単な手助けのみで、子どもが自分で自分の遊びを作ることができる場所をたくさん作ってあげたい。これは地域と行政がやるべきことである。

一番印象に残ったのが、家にも街の中にも居場所がない子どもたち

が増えていることである。小学1・2年生でも携帯でメールのやりとりをして時間を過ごしていることも。親はそのような状況を心配している。子どもが安心していただける居場所づくりを、どうやってつくり、見守っていけばよいただろうか。

地域子ども教室は、毎日開催しようとするボランティアの不足が深刻である。現在、安全指導員含め子どもたちに関わっている地域の高齢者に声掛けし、ボランティアとして関われるような活動をしてはどうか。高齢者の居場所づくりも視野に含めた検討をするのがよいと思う。

座長： 保護者の気持ちを含めての提案だった。自分の家でも学校でも居場所がない子どもたちが増えていること、子どもの気持ちを理解してくれる大人が少ないことについて、我々が保障してやらねばならないという現状認識ができた。何かしらの策を講じなければならない。学校の活用、校庭開放に伴う安全指導員の配置については、自助努力・ボランティア精神だけでは賄えない。行政との連携が必要である。学童保育の現状、4年生以上の問題、学校・公園などの早急な改善と対策、子どもセンター・冒険遊び場など、市と協議し充実を図っていききたい。

新たなポイントとして、障がいを持った子どもたちの居場所が少ないことがあげられた。より健やかな発達のためにも、大事な視点である。具体的な提言で、わかりやすく方向性が示されていた。

次の提言を発表していただきたい。学生の視点からどのように考えているか。

委員： 自分の考えを視覚的にまとめた。

子どもの居場所が本当に必要かという前回の宿題について考えた。昔は道草ができていたが今はできない。道草ができなくなった背景には、環境の変化がある。不審者や悪質な犯罪、交通事故の危険性など。道路で遊ぶことが多いので車に対する保護者の危機感が強い。街に出ると、店やゲームセンターなどがあり、学校から帰る途中に誘惑が多く、万引きや問題行動に走ってしまうことが考えられる。

そこで、昔のように道草をすることは難しいが、どうすれば子どもたちが自由を取り戻せるかを考えた。安心して道草ができる地域づくりには、危険を感じたときに声を掛けてくれたり、あいさつをしてくれたりする大人が必要である。そのためには大人の側に、子どもに目を配るゆとりが必要となる。町田は私の地元より大人の余裕が感じら

れない。自分のことだけで、視野が狭くなっているのでは。

地域に悪い人がいなくなるためには、知らない人がいなければよいと思うが、人がこれだけ多い中で可能かどうかは疑問である。子どもには、自由に入られる空間と温かく見守る目が必要である。

道草をできない今、子どもの居場所はどこにあるのだろうか。前回の資料からは、家の中で遊ぶ時間が多いことが読み取れる。仮に外だとしても学校や公園など限られた場所であり、子どもに自由がない印象がある。学校と家庭だけで地域がない。学童保育に通っていても、時間的に規制が多く自由がない。安全確保は大事だが、自由がなくなって問題である。冒頭の写真でも、公園でカードやゲームをしている子どもたちの姿を見たが、遊び方を知らないのではないか。集団で入り交じり、深い人間関係を築く機会がないのではないか。大人が少し教えてあげないと遊べないのではないか。

それを踏まえ、現状ではどのような支援があるのか調べてみた。放課後子どもプランについて、文部科学省のホームページで他市の事例を見たが、毎日開催しているところはほとんどなかった。ただ、内容は1～6年生を対象とした昔遊びや学童保育に通えない子どもの受け皿など、さまざまな事例があるので参考にしてみてもどうか。私が子どもの居場所を考えるきっかけとなったNPO「みんなのそら」の活動では、小学生から中学1年生までが来ていて、今日はなにをして過ごすか、子どもたちが自分たちで決めている。それが大切だと思う。

座長：率直な印象、さまざまな事例を挙げてもらった。  
大人が守ってくれる安心感がありつつ、自立を促す自由がある。そのために、今後どのような支援を日常的にできるだろうか。  
2人からの提言を踏まえて、30分ほどフリートークで、忌憚のない意見をいただきたい。

委員：PTAの代表、子どもを持つ親としての立場から意見したい。学校開放をするにあたっては、ボランティアや当番、係を決めるのが大変である。実際には同じメンバーばかりが担当している。好きで引き受けてくれる人もいるが、無関心だったり、面倒と感じたり、事情があったりで1歩踏み出せない人が多い。毎日たった2人でも、担当が1年に1度しか回ってこないとしても難しい。居場所づくりに関して、学校開放が一番手っ取り早い方法だとは思いますが、ボランティアに頼るしかないのが現状である。自分の子どもが参加できることを分かって

いても関わらない保護者を、どう説得して参加してもらうかが課題である。

委員：人材集めの難しさは同様に感じている。南三小のレコパンは毎日開催している。スタート当初、利用者である子どもの保護者、PTAに声掛けしたが、いざ始まってみると登録は少なく、主力になったのは地域の人だった。子ども教室の活動を幅広く声を掛けているが、現在も保護者の参加は少ない。学校の教職員にも年数重ねてアピールし続け、やっと理解を得られるようになった。子どもが卒業してから手伝ってくれた保護者もいる。

子どもが在籍している保護者にも参加しやすいスタイルをつくる必要がある。そのために、子ども教室とはどんなものなのか、中が見えるようにするべきである。まずはのぞきに行くくらいからスタートし、そこでどのような地域の人に関わっていて、どのような準備がなされているかがわかれば、手伝う意思が出てくる。

座長：現実的な問題が見えてきた。同時に改善案、地域ごとの工夫も挙げた。

委員：セーフティーボランティアの活動においても、時間を割り振って担当を決めることは難しい。今は家のことをしながら、登下校の見守りをしている。それなら外掃除や出かける時間を下校時に合わせるなどのちょっとした工夫でできる。

地域の環境を整えることも重要である。ごみの放置やはがれたままの掲示物など、だらしなくしておけば犯罪者も寄ってくる。地域の住民も考え方は様々である。努力する人がいる一方、関心が薄い人もいる。指定場所以外にごみを出したり、ポイ捨てをしたり。これらの対応に追われている。環境を守りながら、ボランティアで子どもの安心安全を守っている。

子どもが枠の中にはめられていてかわいそうという意見があったが、子どもは人目につかないところ、干渉されずに自由に遊ぶことを好むものである。大人はそれをわかった上、口出ししないで目だけは離さない。自分の地域の子どものこと、知らない子どもではないのだからという考えを持てる地域になるとよい。子どもの居場所とは、枠にはめられたものだけではないのではないかと思う。

座 長 : 環境の変化の中、自治会の活動にも子どもを考えるとという視点が増えてきたように思う。登下校時のパトロールなど、自治会に入って気づくこともある。

口出ししないで目だけは離さない、意図的な居場所づくりをするべきか、検討が必要であろう。

委 員 : 青少年健全育成地区委員会連絡協議会では居場所づくりは必要であるとの考えである。空き教室だけでなく隙間で遊ぶ、これも居場所である。地域ではそれを承知の上、大人が見守るべきだと思う。

ただ、この懇談会に参加している人たちは、子どもを思ってどうすべきか考えているが、果たして実際に子どもを持つ親たちは、本当に必要性を感じているのだろうか。必要な人がごく一部なのであれば、子どもセンターもできつつあるし、地域子ども教室、PTA や児童委員などの活動もある。居場所は今でもあるのではないか。どこまで本気になって必要だと思っているのかを、まずは知りたい。

イベントなど行う場合、行政や団体の人達は一生懸命やっていて、我々も呼びかけをするが、参加するのは大体同じメンバーになってしまう。さらに居場所をつくることになると、誰がどのようにやるのか、人材や費用等考えるともっと大変になるのではないか。問題がクリアになっていけばよいと思うのだが、個人的には疑問に思っていた。関わっている以上、自分の目標となるものを掲げていく地域社会になるとよい。

昨日の原町田地区委員会で、基本は家庭だという意見が出た。家庭がしっかりしていれば、特別居場所づくりを考えなくても十分ではないか。地域では努力しているが、温かい目で見ている大人ばかりではない。自分の子どもにすら目が届いていない家庭がある。その人のために周りが頑張り、任せっぱなしにされるのはおかしい。目いっぱい頑張った上で、この部分ができないからやってほしいという姿勢が感じられない。

座 長 : ここに集まっているのは、これまで様々な立場で活動を行ってきた方々なので、熱心に考えているが、原点に戻って居場所を必要としている人たちの意見を聞くことが重要である。後日の地域会議で聞いていきたい。各家庭の状況から改善していくという視点が必要となる。

「親学」という活動があるが、居場所としての家庭の重要性を啓蒙し

なくてはならない時代である。文部科学省が施策として早寝早起き運動をするほど、現状は家庭環境の変化が起きている。今子育て中の安食委員の意見を伺いたい。

委員： まだ幼児なので、子ども同士の交流には必ず親がついていく。妻は同じ年齢の子を持つ仲間とコミュニティーを作り、メールで連絡を取り合いながら子どもクラブを利用している。今は情報交換や相談できる輪を持っているが、親の中にはそのようなつながりを持っておらず、輪に溶け込めない人がいると思う。親の意識の問題だとも思うが、場所があっても溶け込めない親のためにどう取り組んでいくかが課題ではないか。現状を把握し、ストレスを吐き出せる環境を必要としている親に、対応できるとよい。

委員： 補足したい。提言の中で、大人側の理解が得られない場合はどうしたらよいかについて触れている。私たちが28年間の活動の中で最初に大事にしたのは、広報することだった。自分達がやろうとしていること、どのようなことを地域に期待しているか、地域の要望などをアピールした。例えば地域の祭りでは、粘り強く働きかけた結果、中学生が祭りの中心となるまでになった。1・2年で変わるものではないので、あきらめず伝えていくべき。大半の大人には、子育てや居場所づくりについての理解がされていない。そのような人に対してどうやって広報していくかが課題である。

昔は子どもが遊んでいることに親は無関心で、子どもは放任されていた。自分たちの生活に一生懸命だった。ただ何かの時には一緒に遊んでくれていた。今はそのような放任されていた子が親になっており、地域でどう遊ぶか、大人がどう関わっていくかを親自身が知らない。地域で子どもたちと遊ぶことの大切さを、大人にも言い続けている。行事でも、今の親はカメラを持って子どもを観察しているだけで、一緒に遊ぶという感覚がない。

中身が見える活動をしていれば、協力してくれるのではないかと思いい活動している。今、地区委員の半数は地域協力者で、どうやって子どもと関わるか、探すことに喜びを感じることができる大人である。地域でどんなことがあるのか、情報をたくさん伝えること、大人に対する広報が原点なのではないかと感じている。

座長： 時間になったので、本日の協議はこれまでとする。副座長のレジュ

メや各委員の提言を踏まえて、現状の課題と施策、方法、広報の大切さについて話し合った。環境の変化と同時に保護者の変化もおきている中で、子どもの居場所がどうあるべきかを今後考えていくことになる。

### 議題3 地域会議の実施について

10月4日から開催される地域会議の実施要領について、提案と説明を田中児童青少年課長より行う。

座長：各地域会議を懇談会委員が3名ずつ担当する。事務局も分かれてチームで会の運営をする。当日の司会進行は委員の中で決定してほしい。

各地区最初に名前がある委員に、地区の責任まとめ役をお願いしたい。この方々には、各地域の独自性を考慮し、来年の報告書作成にむけてのワーキングメンバーも兼ねてもらおう。他委員にも希望者を募るので、是非参画していただきたい。

第4回の懇談会では、地域ごとの展望、まとめ、合意を出してもらおう。懇談会と地域会議と相互作用しながら、全体として報告書作りに向かう段取りとなる。

### 議題4 その他

特になし

以降、各委員・事務局は担当地域に分かれ、地域会議の確認・ミーティングを行う。

以 上